

# NEWS Letter

*Institute of Social Safety Science*

## 地域安全学会ニューズレター No. 95

### —目次—

- |   |    |
|---|----|
| 0. 地域安全学会東日本大震災連続ワークショップ 2016in 石巻          | 1  |
| 1. 2016 年度地域安全学会大会（総会・研究発表会（春季）<br>のご案内     | 5  |
| 2. 地域安全学会研究発表会(春季)「優秀発表賞」募集のお知らせ            | 7  |
| 3. 第 39 回（2016 年度）研究発表会（秋季）査読論文の募集<br>と投稿方法 | 8  |
| 4. 2015 年度地域安全学会論文賞、および地域安全学会年間<br>優秀論文審査報告 | 16 |
| 5. 2015 年度地域安全学会技術賞審査報告                     | 18 |
| 6. 研究運営委員会の 2015 年度活動報告                     | 19 |
| 7. 寄稿                                       | 21 |
| (1) 放送屋、ネットの世界で奮闘中 大牟田智佐子（毎日放送）             |    |
| (2) 地域安全学 夏の学校 2016—基礎から学ぶ防災・減災—            |    |



地域安全学会ニューズレター  
ISSS News Letter

No. 95  
2016. 4

## 0. 地域安全学会 東日本大震災連続ワークショップ 2016 in 石巻

主催：地域安全学会 共催：調整中

2011年3月11日に発生した震災により東北地方から関東地方に至る多くの沿岸部が被害を受け、各地で復興に関する取り組みが進められています。わが国に甚大な影響を与えている東日本大震災から、どのような教訓を得るのか。研究を通じて、今後の復興に対してどのような知見を与えることができるのか。地域安全学会では、東日本大震災を契機とした将来的な防災と復興について議論を深めていくことを目的として、2012年より「東日本大震災連続ワークショップ」を開催しています。被災から復興までには長い年月がかかります。時間の経過とともに異なる復興の各時点において、皆様から持ち寄っていただいた話題を題材とし、ワークショップの中で情報共有と今後の地域防災に向けての知見を得たいと考えています。それらを数年間にわたり継続しながら、様々な被災地の方々との交流を通して、実施していきたいという趣旨です。

初回となる2012年は、福島県いわき市を開催地とし、震災から1年が経過した時点における皆様からの研究成果を持ち寄っていただき、テーマに即した議論を進めるとともに、いわき市周辺の被災地と復興状況についての見学会や、シンポジウム、そしていわきにおける復興のシンボルとも言うべきスパリゾートハワイアンズにて、ショーを楽しみながらの懇親会も実施しました。さらには、地域安全学会、韓国防災学会、台湾危機管理学会からの研究者を交えての第1回アジア都市防災会議も企画しました。

二年目となる2013年は、岩手県大船渡市にて研究会を行い、地域の方々と親睦を深めるとともに、復興の現場を見学しました。

三年目となる2014年は、岩手県宮古市にて、研究会の他に、津波防災の日シンポジウムを行い、津波防災について市民の方との議論の場を設けました。また田老町などの被災の場を訪れ、震災遺構などの見学会を実施しました。

四年目となる2015年は、宮城県気仙沼市にて、研究会の他に、気仙沼市内の沿岸を訪れ、復興工事現場や震災遺構などの見学会を実施しました。

五年目となる2016年は、宮城県石巻市にて、研究会と見学会を予定しています。引き続き、研究者、実務家、自治体、学生など様々な立場からの参加により、活発な発表、討議、意見の交流が行われることを期待いたします。奮ってご参加くださいますようお願い申し上げます。

■アブストラクト締切：2016年5月16日（月）、原稿締切：6月30日（木）※詳細は別添参照

■日程： 8月5日（金）～6日（土）

8月5日（金）（航空機、新幹線の発着時間は変更の可能性があります）

12:30～13:30：受付

13:30～17:30：開会式／講演会（石巻市より2名）／研究会

18:00～20:00：懇親会

8月6日(土)

9:00~15:00: 見学会(途中、昼食あり)

■会場: 石巻中央公民館(石巻市日和が丘1-2-7 0225-22-2970)  
石巻駅から徒歩15分

■懇親会 市内会場調整中  
懇親会費: 一般6,000円、学生: 3,000円(※要事前申込)

■見学会 調整中  
復興まちづくり情報交流館、南浜つなぐ館、語り部など  
参加費: 3,000円(含昼食代)(※要事前申込)

■宿泊: 市内のホテルを各自ご予約ください。

■問い合わせ:

東北大学災害科学国際研究所 村尾修/佐藤翔輔/杉安和也

Email: ssato[\*]irides.tohoku.ac.jp ※[\*]: 半角アットマーク

※事前申し込みは、以下の情報をメールにコピーして、佐藤翔輔までご連絡ください

-----事前申込フォーム(7/15(金)までにお申し込みください)-----

8月5日(金) 懇親会(一般6,000円、学生: 3,000円) 参加/欠席

8月6日(土) 見学会(参加費3,000円) 参加/欠席

## 地域安全学会東日本大震災連続ワークショップ in 石巻 2016 のお知らせ

東日本大震災特別委員会

2016年8月5日（金）～6日（土）に宮城県石巻市において地域安全学会東日本大震災連続ワークショップ in 石巻 2016 を開催致します。

### 記

#### ■応募概要

##### 1) 開催日時・場所

・日時：2016年8月5日（金）開会式／講演会／研究会（下記①～⑧のテーマ別分科会）／懇親会

##### 8月6日（土）見学会

・会場：石巻中央公民館（石巻市日和が丘 1-2-7 0225-22-2970）

##### 2) アブストラクト提出・登録

・締切：2016年5月16日（月）17時

・登録はEメールによって行ってください。宛先は [311EQ-Tsunami@iss.info](mailto:311EQ-Tsunami@iss.info)

・登録内容書式

件名 「東日本大震災連続ワークショップ登録」

1 行目 テーマ別番号（①～⑧）

2 行目 論文題目

3 行目 筆頭著者氏名

4 行目 筆頭著者所属

5 行目 筆頭著者連絡先住所（郵便番号も）

6 行目 筆頭著者Eメールアドレス

7 行目 筆頭著者電話番号

8 行目 筆頭著者ファックス番号

9 行目 連名著者がいない場合はアブストラクト（論文概要）（250字以内）、いる場合はその氏名、所属を1行に1名ずつ記入、改行後、アブストラクト（論文概要）（250字以内）。

注1) 発表者がわかるように氏名に○をつけてください。

登録完了後アブストラクト審査を行い、採択の可否と同時に受理論文著者には事務局より受付番号の入った登録受理メールをお送りします。

注2) テーマ別番号：①組織の対応、②避難所、応急仮設住宅、恒久住宅、③復旧・復興、④経済被害、⑤人的被害、⑥物的被害、⑦防災教育、⑧社会調査・

エスノグラフィー

### 3) 論文原稿の送付

・送付期限：2016年6月30日（木）17時

・論文形式：「研究発表会（春季）一般論文」の要領に準ずるものとし、当学会のホームページ（[www.iss.info](http://www.iss.info)）に掲載の一般論文用 MS-Word テンプレートをダウンロードの上、利用してください（査読論文用テンプレートではありませんのでご注意ください）。

・A4 版、4 ページまたは 6 ページ、PDF ファイルに変換したものを投稿してください。投稿された PDF ファイルを白黒出力し印刷します。

### 4) 投稿料の納入

・投稿料：2,500 円/ページ（4 ページ：10,000 円、6 ページ：15,000 円）

・投稿料の納入方法

① 期限：2016年6月30日（木）までに②宛てに振り込んでください。

② 振込先：

銀行：りそな銀行 市ヶ谷支店（店番号：725）

口座名：地域安全学会 ワークショップ口座

口座種別・番号：普通預金 1745823

振込者名：受付番号+筆頭著者氏名

③ その他：振込の際には、登録受理メールにて返信された受付番号を筆頭著者氏名の前に入力してください。

④ 注意：査読論文や春季研究発表会一般論文などの振込口座とは異なりますのでご注意ください。

■研究会・現地への行程・宿泊案内等詳細については、追って HP 等で案内します。

## 1. 2016 年度地域安全学会大会(総会・研究発表会(春季))のご案内

- 
- (1) 第 38 回 (2016 年度) 地域安全学会研究発表会 (春季)
  - (2) 2016 年度地域安全学会総会
  - (3) 公開シンポジウム (地域のチカラで南海トラフ地震と戦う)
- 

高知県高知市で 2016 年度地域安全学会総会および公開シンポジウム等を開催します。今年度も総会にあわせて、第 38 回 (2016 年度) 地域安全学会研究発表会 (春季) <一般論文発表会>を行いますので積極的な参加をお願いします。

### (1) 第 38 回 (2016 年度) 地域安全学会研究発表会 (春季) <一般論文発表会>

場所：高知県立県民文化ホール多目的室 (〒780-0870 高知市本町 4 丁目 3-30)

日時：2016 年 6 月 3 日 (金) 13:30~16:30 一般参加可能

※登録申し込みおよび論文投稿期限についてはニューズレターNo. 94 (2016 年 2 月) もご確認ください。

※プログラムは地域安全学会ホームページに掲載します。

※上記の時間は一般論文発表数により多少の変更があるかもしれません。

### (3) 2015 年度地域安全学会総会

場所：高知県立県民文化ホール多目的室

日時：2016 年 6 月 3 日 (金) 16:45~18:15

懇親会：

場所：三翠園 (高知県高知市鷹匠町 1-3-35)

日時：2016 年 6 月 3 日 (金) 19:00~21:00

ご挨拶：高知県知事 (予定)

会費 6,000 円 ※事前申し込み制です。

### (4) 公開シンポジウム「地域のチカラで南海トラフ地震と戦う」

主 催：一般社団法人地域安全学会

共 催：高知県

日 時：2016 年 6 月 4 日 (土) 09:30~11:30

場 所：高知県立県民文化ホール (グリーンホール) (〒780-0870 高知市本町 4 丁目 3-30)

司会・進行：高知大学地域協働学部 藤岡 正樹 講師

話題提供：高知大学地域協働学部 大槻 知史 准教授

地域活動報告

高知県立大学 イケあい地域災害ボランティアセンター

高知工科大学 KPAD

高知大学 防災すけっと隊

### (5) 現地見学会「津波避難施設の視察」

日時：2016 年 6 月 4 日 (土) 12:00~16:00

(解散は高知龍馬空港 (15 時) と高知駅 (16 時))

参加費 : 4,000 円 (バス代, ガイド代, お弁当代)

コース (予定) : 県民文化ホール[12:00]→五台山展望台→種崎地区津波避難センター→南国市津波避難タワー→高知コアセンター→高知龍馬空港[15:00], 高知駅[16:00]

※事前申し込み制です.

(要事前申込み) [ippan-haru@isss.info](mailto:ippan-haru@isss.info) へ氏名, 所属, 携帯電話番号を記載し, 以下について記載の上申込みください. 締め切り : 5/13(金)

- 懇親会 (6 月 3 日) の参加の有無
- 現地見学会への参加濃霧

## 2. 地域安全学会研究発表会（春季）「優秀発表賞」募集のお知らせ

地域安全学会 表彰委員会

地域安全学会では、平成24年度から春季・秋季研究発表会での一般論文の研究発表（口頭発表・ポスター発表）を対象として優秀発表賞を設置し、表彰を行っています。来たる平成 28年6月に実施される第38回（2016年度）地域安全学会研究発表会（春季）一般論文については、下記要領で実施します。

事前に応募登録された方のみを対象に選考するものとし、受賞資格を下記のように設けていますのでご確認の上、必ず下記の方法にて応募登録をお願いします。大学院生をはじめとする若手会員の皆さんや新たに研究活動を始められた方々の活発な研究活動を奨励することを目的としております。奮って応募していただくようにお願いします。なお、応募者は当日の懇親会に出席の上、選考結果発表会に臨むものとしています。

### ■「優秀発表賞」応募登録の方法（今回から変更いたしましたのでご注意ください）

- ・第38回（2016年度）地域安全学会研究発表会（春季）一般論文募集の「(1) 投稿要領」に従い、Eメール登録時点で書式に則り、「優秀発表賞」の審査希望の有無をご回答ください。
- ・審査を希望されない方も、必ず希望欄に「無」とご記入しご回答ください。

### ■審査要領改正のお知らせ

- ・「地域安全学会優秀発表賞」審査要領の一部改正が、平成28年3月26日の理事会において提案・承認されましたので、ご注意ください。改正点は、これまでは受賞対象者は「・・・研究発表会（春季・秋季）での一般論文の研究発表（口頭発表・ポスター発表）の発表者を対象とする。・・・代理発表者は対象外とする。」となっておりますが、それを以下のように改正いたしました。

#### 1. 受賞対象者

「地域安全学会優秀発表賞」の受賞対象者は、地域安全学会 研究発表会（春季・秋季）での一般論文の研究発表（口頭発表・ポスター発表）の発表者であり、原則、研究実施または論文作成において指導を受ける立場にある40歳（当該年度4月1日時点）未満の者とする。ただし、実務者等は研究歴等を考慮し年齢規定を緩和することもある。再受賞は認めない。また、予定された発表者ではない代理発表者及び一般論文登録時に審査を希望しない旨登録した者は対象外とする。



# 3. 第39回(2016年度)研究発表会(秋季)査読論文(地域安全学会論文集 No.29)の募集と投稿方法

2016年4月  
地域安全学会 学術委員会

「論文査読システム」は電子申込・電子投稿となっております。本年度からシステムの変更を行いました。ご注意ください。「論文査読システム」を通じて、2016年5月13日(金)正午12:00までの期間内に、地域安全学会ホームページ(www.isss.info)から、論文申込と査読用論文原稿を同時に投稿して下さい。

査読は、カラー原稿を前提として行います。なお、再録、印刷される冊子体論文集はすべて白黒印刷とします。また、論文別刷りの作成・送付は行わないこととしておりますので、ご了承下さい。

また、平成21年度より新たに別途、審査付の論文集(電子ジャーナル)を発行することとなりました。これに伴い、第二次審査において採用とならなかった論文のうち、一部の修正により採用となる可能性があることと認められるものは、著者が希望すれば、再度修正・審査を行い、審査の結果、採用となれば地域安全学会論文集(電子ジャーナル)(平成29年3月発行予定)に掲載します。この場合、修正は1回のみとし執筆要領は本査読論文の執筆要領に準拠します。会員各位の積極的な査読論文の投稿をお願いします。

会員各位の積極的な電子ジャーナル査読論文の投稿をお願いします。

## 1. 日程等

- (1) 論文(講演)申込と査読用論文原稿の投稿期限(電子投稿)  
平成28年5月13日(金)12:00(正午, 時間厳守)
- (2) 第一次審査結果の通知  
平成28年7月下旬
- (3) 修正原稿の提出期限(電子投稿)  
平成28年9月2日(金)12:00(正午, 時間厳守)
- (4) 「地域安全学会論文集 No.29」への登載可否の通知  
平成28年9月中旬
- (5) 登載決定後の最終原稿の提出期限(PDFファイルの電子投稿および白黒原稿の郵送)  
①PDFファイルの電子投稿  
平成28年10月7日(金)12:00(正午, 時間厳守)  
②白黒原稿の郵送  
平成28年10月7日(金)(消印有効)
- (6) 地域安全学会研究発表会での登載可の論文の発表(論文奨励賞の審査を兼ねる)  
月日:平成28年11月4日(金)~5日(土)  
場所:静岡県地震防災センター
- (7) 論文賞・論文奨励賞授与式(次年度総会に予定)

## 2. 査読料の納入

- (1) 査読料 1万円/編  
①期 限:平成28年5月16日(金)までに、②宛てに振り込んで下さい。  
②振込先: りそな銀行 市ヶ谷支店  
口座名: 一般社団法人地域安全学会 査読論文口座  
口座種別: 普通口座  
口座番号: 1745807  
振込者名: 受付番号+筆頭著者 (例: 2016-000 チイキタロウ)  
③その他: 査読料の入金確認をもって論文申込手続きの完了とさせていただきます  
<投稿論文に形式上の不備があり、実際の査読が実施されない場合も返金いたしません>

## 3. 登載料の納入

- (1) 登載料 (CD-ROM版論文集1枚+冊子体論文集1冊を含む)  
6ページは2万円/編, 10ページを限度とする偶数ページの増頁については、5千円/2頁。
- (2) 登載料の納入方法  
平成28年10月10日(月)までに、上記2.(2)-②の振込先に振込んで下さい。

## 4. その他の注意事項

- (1) 申込期間の締切り間際に投稿の集中が見込まれます。予期せぬ事態によりサーバーがダウンし、

受付ができなくなる恐れも出てきます。締切り間際の投稿は極力避けていただくようお願いいたします。

- (2) 論文申込と査読用論文原稿の電子投稿の概略（詳細は電子投稿システムの指示に従って入力して下さい）＜本年度からシステムが若干変更になります＞
  - ・ 申込者の氏名，所属，連絡先，その他の事項を入力する。
  - ・ 論文題目，著者，所属，連絡先，その他の事項及び論文概要(250文字程度)を入力する。
  - ・ 原稿ファイル（PDF形式のみ）を指定し，送信する。
- (3) 執筆要領テンプレートの入手方法  
「論文集の執筆要領」は，電子ファイル「論文集の執筆要領と和文原稿作成例」（テンプレート）が，地域安全学会ホームページ（<http://www.issn.info>）にありますので，必ず最新のテンプレートをご利用下さい。なお，審査の公正を高めるため，査読用論文原稿には，氏名，所属および謝辞を記載しないこととしておりますので，ご注意ください。詳細につきましては「論文集の執筆要領」をご参照下さい。
- (4) 申込だけで原稿が未提出のもの，査読料の払い込みのないもの，投稿論文が「論文集の執筆要領」に準じていないもの，および期限後の電子投稿は原則として受理できません。
- (5) Web上の電子ジャーナル論文と，冊子体論文集に添付される「CD-ROM版論文集」には，登載決定後に電子投稿いただいた原稿ファイル（PDF形式）に，ページ番号を追加して収録しますので，カラー図版に関する制限はありません。査読用論文原稿の電子投稿と同様の手順で最終原稿の電子投稿をお願いいたします。
- (6) 「冊子体論文集」は，原稿ファイル（PDF形式）の白黒出力を掲載します。原稿がカラー版の場合でも白黒印刷となります。

#### 会員の皆様へ 論文査読のご協力お願い

「地域安全学会論文集」への投稿論文につきましては，学術委員会にて論文1編あたり2名の査読者を，原則として会員内より選出し，査読依頼をe-mailで送信いたします。地域安全学会の会員各位におかれましては，学術委員会より査読依頼が届きましたら，ご多用中のことと存じますが，ご協力の程，よろしくお願い申し上げます。

## 査読論文投稿(査読用原稿, 修正原稿, 最終原稿)にあたってのチェックリスト

平成28年3月  
地域安全学会学術委員会

以下の項目は、論文投稿時に多数見られる原稿不備の事例に基づいて、チェックリストとしてまとめたものです。それぞれ確認して、□の欄にレ印を入れてください。

このチェックリストは、ケアレスミスや種々の認識不足による論文返却など、望ましくない事態を極力避けることを意図したものであり、投稿規程や執筆要領を遵守していることを保証するものではありません。下記以外の理由で論文が受理されず返却されることもありますので、ご注意ください。

### ■第一次審査段階 「査読用原稿」の提出チェックリスト

本会あるいは他学協会の審査付き論文集に投稿された論文と同一の論文の同時投稿（「重複応募」）ではありませんか？

人権の保護及び法令等の遵守への対応をしていますか？（例えば、個人情報を伴うアンケート調査・インタビュー調査、実験など、研究機関内外の倫理委員会等における承認手続が必要となる調査・研究・実験などが対象となります）

共著論文の場合、論文内容に関して、著者間で了解が得られていますか？

最新の（当該年度の）執筆要領のテンプレートを使用していますか？

投稿システムなどの変更内容を募集案内などで確認しましたか？

投稿原稿のページ数は6～10ページに収まっていますか？

フォーマット（特に、フォント種類、フォントサイズ、英文の大文字小文字、空行の空け方、一ページの行数、一行の文字数など）を守っていますか？

PDF ファイル変換後に、図表の意図しない移動や、文字化け、ページ数超過などが起きていないか、印刷出力して確認しましたか？

投稿規程や執筆要領に従っていない原稿は、形式違反として返却される事を理解していますか？

投稿するファイルを、最新のセキュリティ環境のパソコンでウイルスに感染していないかチェックされましたか？

第一段階の査読用原稿では、著者および所属欄は未記入のままであることを確認しましたか？（白い矩形を貼り付けて見えなくしても、Acrobat 機能でテキストが抽出されます。隠すのではなく記入自体しないでください。）

指定投稿期限後に投稿された原稿は、機械的に受付番号が発行されても無効となり、受理されない事を理解していますか？

- 投稿規程および執筆要領（その他、学術委員会からの指示を含む）に従っていない原稿は、形式違反として返却される事があると理解していますか？
- 査読料の払い込みを、期限内に済ませましたか（済ませられますか）？

■第二次審査段階 条件付掲載通知を受けた「修正原稿」の提出チェックリスト

- 修正原稿において、著者および所属は記載されていますか？
- 修正箇所を赤文字で明記していますか？
- 学術委員会の指摘事項以外の加筆修正は認められないことを理解していますか？
- 投稿するファイルを、最新のセキュリティ環境のパソコンでウイルスに感染していないかチェックされましたか？
- 期限後の電子投稿は無効となる事を理解していますか？
- 投稿規程および執筆要領（その他、学術委員会からの指示を含む）に従っていない原稿は、形式違反として返却される事があると理解していますか？

■最終審査段階 条件付掲載通知を受けた「再修正原稿」の提出チェックリスト

- 修正原稿において、著者および所属は記載されていますか？
- 修正箇所を赤文字で明記していますか？
- 学術委員会の指摘事項以外の加筆修正は認められないことを理解していますか？
- 投稿するファイルを、最新のセキュリティ環境のパソコンでウイルスに感染していないかチェックされましたか？
- 期限後の電子投稿は無効となる事を理解していますか？
- 投稿規程および執筆要領（その他、学術委員会からの指示を含む）に従っていない原稿は、形式違反として返却される事があると理解していますか？

■第二次および最終審査段階 掲載決定通知を受けた「最終原稿」の提出チェックリスト

- 修正箇所を示した赤文字をすべて黒文字に直していますか？（論文CD はカラー版です）
- 最終原稿は、学術委員会が特に指示した軽微な修正以外は認められない事を理解していますか？
- フォーマット（特に、フォント種類、フォントサイズ、英文の大文字小文字、空行の空け方、一ページの行数、一行の文字数など）を守っていますか？
- PDF ファイル変換後に、意図しない図表の移動や、文字化け、ページ数超過などが起きていないか、印刷出力して確認しましたか？
- 投稿するファイルを、最新のセキュリティ環境のパソコンでウイルスに感染していないかチェックされましたか？
- 電子投稿と同一内容の、白黒原稿が郵送期限を過ぎていた場合、電子投稿が受け付けられたとしても、受理されない事を理解していますか？
- 査読料、および登載料の払い込みを、期限内に済ませましたか（済ませられますか）？

# 地域安全学会論文集(電子ジャーナル論文)の執筆要領と和文原稿作成例

## Guideline for Manuscript and Japanese Paper Sample of the Journal of Social Safety Science

(査読用原稿では点線で囲まれた枠内には記入しないこと。図形の貼付も不可。  
修正原稿では必ず正しく記入すること。)

地域 太郎<sup>1</sup>, 安全 花子<sup>2</sup>

Taro CHIIKI<sup>1</sup> and Hanako ANZEN<sup>2</sup>

<sup>1</sup> 地域安全大学 情報工学科

Department of Information Technology, Chiiki Anzen University

<sup>2</sup> 防災科学コンサルタント(株) 防災技術部

Department of Disaster Mitigation Engineering, Bousai Kagaku Consultants Co., Ltd.

The present file has been made as a print sample for the Journal of ISSS. The text of this file describes, in the camera-ready manuscript style, instructions for preparing manuscripts, thus allowing you to prepare your own manuscript just by replacing paragraphs of the present file with your own, by CUT & PASTE manipulations. Both left and right margins for your Abstract should be set 1 cm wider than those for the text of the article. The font used in the abstract is Times New Roman, 9pt, or equivalent. The length of the abstract should be within 7 lines.

**Keywords:** *three to six words, one blank line below abstract, indent if key words exceed one line, Times New Roman, italic, 9 point font*

### 1. はじめに

この「地域安全学会論文集の執筆要領と和文原稿作成例」は、参考文献<sup>1)</sup>を参考に、「地域安全学会論文集」(電子ジャーナル論文)の原稿作成の指針を示したものです。

この電子ファイルは、地域安全学会論文集の原稿(和文)を作成するために必要なレイアウトやフォントに関する基本的な情報を記述したテンプレートです。原稿そのものの体裁(A4)をとっているため、このファイルの中の文章をこれから書こうとしている実際のものに置き換えれば、所定のフォントや配置の原稿を容易に作成することができます。原稿作成にあたっては、必ずこのテンプレートを使用してください。フォーマットの細部が変更される場合がありますので、過去に投稿した原稿を再利用することはお控えください。フォーマットが守られていない原稿については、学術委員会において形式審査により不受理とする場合があります。

### 2. 用紙と基本構成

原稿は、A4判で、次の順に作成して下さい。

- ・ 題目(和文および英文)
- ・ アブストラクト(英文)
- ・ キーワード(英文)
- ・ 本文(和文または英文)

- ・ 補注(必要な場合)
- ・ 参考文献

審査の公正を高めるために査読者には著者名を伏せて査読原稿を送付しますので、上記の点線で囲まれた著者名(和文および英文)および所属名(和文および英文)の部分は記入しないでください。上から図形を貼付して伏せることも不可です。謝辞も同様に空欄にしてください。また、参考文献として論文中に引用する場合は、「著者らは」など末尾の参考文献と関連して著者名がわかるような記述は避けてください。

### 3. 論文送付票

地域安全学会ホームページの査読論文申し込み画面で、

- ・ 題目(和文および英文)
- ・ 筆頭著者氏名(和文および英文)、所属(和文および英文)、および連絡先(郵便番号、住所、e-mailアドレス、電話番号、ファックス番号)
- ・ 連名著者全ての氏名・所属(和文および英文)
- ・ 原稿枚数、図・表・写真の枚数を入力し、送信して下さい。同時に、PDF形式とした査読論文を送信して下さい。

## 4. レイアウト等

レイアウトは、本要領に従って下さい。ただし、使用するソフトウェアやプリンターの違いによって、文字の大きさや字体、レイアウトの寸法などに若干の差異が生じて構いません。しかし、1 ページ当りの字数に大幅な増減がある場合には、レイアウトの修正をお願いすることがあります。

### (1) マージン等

- ・ 上下：各 20mm，左右：各 20mm  
(ただし、1 ページ目のみ上：30mm)
- ・ 二段組み本文の段組間隔は 8mm

### (2) フォント等

フォントは、原則として、以下の通りとします。

- ・ 題目：和文はゴシック 14pt，中央揃え，左右各 30mm のマージン。  
英文は Times New Roman 12pt，中央揃え，左右各 30mm のマージン。
- ・ 著者名：和文は明朝 12pt，中央揃え，左右各 30mm のマージン。  
英文は Times New Roman 12pt，中央揃え，左右各 30mm のマージン。
- ・ 著者所属：和文は明朝 9pt，左揃え 30mm のマージン。  
英文は Times New Roman 9pt，左揃え 30mm のマージン。
- ・ アブストラクト：英文 Times New Roman 9pt，左揃え，左右各 30mm のマージン。
- ・ キーワード：Times New Roman, italic, 9pt, 3-6 語，2 行以内，左右各 30mm のマージン。  
“**Keywords**” は一語でボールドイタリック体。
- ・ 本文：明朝 9pt，行替えの場合は 1 字下げ。  
- 章の見出し：ゴシック 10pt，左寄せ  
- 節，項の見出し：ゴシック 9pt，左寄せ  
- 図，表，写真のキャプション：ゴシック 9pt，中央揃え
- ・ 補注，参考文献の指示：明朝 9pt の右肩上付き 1/4 角を原則としますが，各学問分野の慣例に従っても構いません。
- ・ 補注(必要な場合)：“補注”はゴシック 10pt，左寄せ，補注自体は，明朝 8pt。
- ・ 参考文献：“参考文献”はゴシック 10pt，左寄せ。  
参考文献自体は，明朝 8pt。

### (3) 行数および字数

#### a) アブストラクト

7 行以内として下さい。

#### b) 本文

二段組みとし，一段当りの幅は 81mm，1 行当り 25 字，行間隔は 4.0mm とし，1 ページ当り 60 行を標準として下さい。したがって，文章のみのページでは 1 ページ当り 3,000 字が標準的な字数となります。

### (4) 総ページ数

題目から参考文献までを含めて，最低 6 ページ，最大 10 ページとして下さい。なお，査読者による指摘事項を踏まえて加筆・修正することを念頭に置き，最終原稿が

10 ページを超えないように査読用原稿を執筆することをお勧めします。

参考文献リストのあとに 1 行空けて，電子申込・投稿した日を投稿受付年月日として，右詰めで書いて下さい。登載が決定した場合には，最終原稿に登載が決定した日付を登載決定年月日として，投稿受付年月日の下に記載してください。

## 5. 文章および章，節，項

### (1) 文章の書き方

文章は口語体によって，とくにカタカナ書きや英文を必要とする部分以外は，漢字まじり平仮名書きとして下さい。私的な表現，広告・宣伝，特定の個人・組織を誹謗する表現は避けて下さい。

### (2) 章，節，項のタイトルの書き方

章，節，項の見出し記号と前後の行空け等は，以下の通りとして下さい。

- ・ 章：“1 … 9.”，前 2 行空き，後ろ 1 行空き。
- ・ 節：“(1) … (9)”，前 1 行空き，後ろ行空き無し。
- ・ 項：“a) …… z)”，前後行空き無し。

## 6. 式，記号および単位系

### (1) 記号等の使い方

式や図に使う文字，記号，単位記号等はできる限り常識的な記号等を用い，必要に応じて記号等の一覧を付けて下さい。

### (2) 数式

数式は，式の展開や誘導部分を少なくしてできるだけ簡潔にまとめ，必要に応じて本文中で説明して下さい。また，数式には，式の番号を “[1] …… [9]” とし，右寄せで付けて下さい。

### (3) 単位系

単位は，原則として国際単位系：SI<sup>(1)</sup>を用いて下さい。

## 7. 図，表，写真

### (1) 図，表，写真の体裁

CD-ROM 版論文集には，電子投稿された PDF ファイルが収録されますので，カラー版に関する制限はありません。電子出版の利点を活かしてカラー版を使用して下さい。ただし，冊子体論文集は白黒印刷となりますので，白黒印刷の完全版下原稿を別途作成していただきます。

### (2) 図，表，写真中の文字，キャプション等

図，表，写真は，最後にまとめて配置するのではなく，関連のある文章の近くに配置して下さい。

図，表，写真中文字やキャプション等は，本文と同じ言語を用いて下さい。

図，表，写真には，それぞれ一連番号を付けて下さい。

表のキャプションは上に，図および写真のキャプションは下に付けて下さい。

### (3) 図、表、写真と文章との関係

図、表、写真をページの一番上または一番下に配置する場合以外、上下 1 行ずつ空けて下さい。図、表、写真は一段のみ、二段抜きのいずれでも構いませんが、図、表、写真の左右には本文を組み込まないで下さい。

図、表、写真は、本文と同じ方向で組み込むことを原則とします。ただし、1 ページ全体を 1 つの図、表、写真とする場合は、本文の方向から 90° 回転することができます。

### (4) 図、表、写真の引用について

図、表、写真を他の著作物から引用する場合には、出典を必ず明記し、著作権法に抵触しないよう、著者の責任において原著者等の了解を得て下さい。

## 8. 補注について

本文中の脚注や注はできるだけ避け、本文中で説明するか補注として本文末尾において下さい。ただし、それぞれの学問分野の慣例に従っても構いません。

補注とする場合は、順番に“(1) …… (9)”の番号を付け、明朝 9pt の上付きで示して下さい。

## 9. 参考文献について

参考もしくは引用した文献は、順番に“(1) …… (9)”の番号を付け、本文中では明朝 9pt の上付きで引用して下さい。末尾の“参考文献”の記述内容は、全ての著者、論文名、雑誌名または書名、巻号、ページ、発行所、発行年の順に記載して下さい。著者が 3 名以上の場合に限り、第 1 著者のみを記載しあとを“他”または“et al.”としても構いません。

原稿受付の段階で登載が決定していない論文は引用できません。公表されていない論文については、査読に際して提出いただく場合もあります。

## 10. 著作権と著者の責任

「地域安全学会論文集」に登載された個々の著作物の著作権は著者に属し、原稿の内容については著者が責任を持つこととなります。したがって、印刷後発見された誤植や内容の変更はできません。誤植の訂正や内容の変更が必要な場合は、学術委員会の了承を得た上で、著者の責任において、文書で、当該論文が登載されている「地域安全学会論文集」所有者に周知して下さい。

### 11. 修正原稿および印刷用最終原稿の提出

学術委員会による一次審査を通過した論文については、「修正原稿」および「修正事項に対する回答書」を提出していただきます。

修正原稿では、修正箇所を必ず赤字で示し、どのように修正がなされたのか、わかるようにして下さい。このような修正方法が適切でないために不採用と判断され

る場合があります。指摘事項以外の修正は認められません（誤字脱字の修正などの軽微なものを除く）。

修正原稿では、上記の点線で囲まれた所定の部分に著者名（和文および英文）および所属名（和文および英文）を追記し、点線の枠は削除して下さい。また、隠匿したや謝辞等がある場合についても、必ず追記して下さい。

学術委員会による最終審査を通過した論文については、最終原稿ファイル（PDF）を提出していただきます。その際に、軽微な修正を指示することがあります。

## 12. その他

### (1) 原稿受付年月日

学術委員会により原稿が受理された日付を原稿受付年月日とします。日付については、最終原稿ファイルの作成依頼時にお知らせします。

### (2) 登載決定年月日

登載が決定した日付を登載決定年月日とします。日付については、最終原稿ファイルの作成依頼時にお知らせします。

### (3) 登載決定

査読を経た原稿が、本「査読論文執筆要領」に合致していると学術委員会が認めた時点で、登載決定を事務局より通知します。

### (4) 査読者等の公表

個々の論文についての査読者名および査読内容は公表しません。論文集には、当該年度の査読者の一覧を掲載します。

### (5) 英文論文への適用

本文を英文とする論文の執筆要領は、本文が和文であることを前提として作成した本「査読論文執筆要領」に準拠して下さい。しかし、英文の場合は、和文のタイトル、著者名、所属は不要です。

本文のフォントは、Times New Roman 9pt を基本として使用して下さい。

## 補注

### (1) 国際単位系

SI は、1960 年の国際度量衡総会で採択され、メートル法の単位をもとに、現代の科学技術および一般の社会活動の諸分野で共通に使用できるよう編成された実用的な単位系で、以下のような長さ、質量、時間、電流、温度、物質質量、光度の基本単位があります。

長さ：メートル(m)	質量：キログラム(kg)
物質質量：モル(mol)	時間：秒(s)
光度：カンデラ(cd)	電流：アンペア(A)

また、10 の整数乗倍の単位を作るために以下のような SI 接頭語が定められています。

10 <sup>24</sup> ：ヨタ(Y)	10 <sup>3</sup> ：キロ(k)	10 <sup>9</sup> ：ナノ(n)
10 <sup>21</sup> ：ゼタ(Z)	10 <sup>2</sup> ：ヘクト(h)	10 <sup>12</sup> ：ピコ(p)
10 <sup>18</sup> ：エクサ(E)	10 <sup>1</sup> ：デカ(da)	10 <sup>15</sup> ：フェムト(f)
10 <sup>15</sup> ：ペタ(P)	10 <sup>1</sup> ：デシ(d)	10 <sup>18</sup> ：アト(a)

10<sup>12</sup> : テラ(T)      10<sup>-2</sup> : センチ(c)      10<sup>-21</sup> : ゼプト(z)  
10<sup>9</sup> : ギガ(G)      10<sup>-3</sup> : ミリ(m)      10<sup>-24</sup> : ヨクト(y)  
10<sup>6</sup> : メガ(M)      10<sup>-6</sup> : マイクロ( $\mu$ )

- 1) 土木学会論文編集委員会：土木学会論文集投稿の手引, 論文集編集委員会関連資料, 土木学会, pp.8-22, 1998.
- 2) Kanamori, H., Aki, K. and Heaton, T.: Real-time seismology and earthquake hazard mitigation, Nature, Vol. 390, pp. 461-464, 1997.

## 参考文献

(原稿受付 2016.MM.DD)  
(登載決定 2016.MM.DD)



## 4. 2015 年地域安全学会論文賞、および地域安全学会年間優秀論文賞審査報告

地域安全学会 学術委員会

2015 年は、査読論文（2015 年 3 月発行論文集 No.25（電子ジャーナル）、2015 年 7 月発行論文集 No.26（電子ジャーナル）、および 2015 年 11 月発行論文集 No.27（研究発表会））に、計 45 編の論文が掲載された。

これら 45 編の論文に対して、2015 年地域安全学会論文賞、および地域安全学会年間優秀論文賞の審査が行われた。地域安全学会年間優秀論文賞は、一年間に地域安全学会論文集に掲載された査読論文の中から最も優秀な論文を選定しこれを表彰するものであり、2012 年に設置された。ここでは、その審査要領と審査結果について報告する。

### ■「地域安全学会論文賞」および「地域安全学会年間優秀論文賞」の審査要領

#### 1. 授賞対象者

「地域安全学会論文賞」の授賞対象者は、「地域安全学会論文集」（研究発表会（秋季）査読論文および電子ジャーナル査読論文）に掲載された論文の著者で地域安全学会会員であり、原則として筆頭著者および共著者全員とする。

「地域安全学会年間優秀論文賞」の授賞対象者は、「地域安全学会論文集」（研究発表会（秋季）査読論文および電子ジャーナル査読論文）に掲載された論文の著者で地域安全学会会員であり、原則として筆頭著者とする。

#### 2. 審査方法

- 1) 学術委員会委員全員、および学術委員長が委託する若干名から構成される審査会が審査を行なう。
- 2) 審査は、当該論文の新規性、有用性、完成度を評価の対象として、これを行う。
- 3) 審査の実施細目は別途定める。

#### 3. 表彰

- 1) 賞は「地域安全学会論文賞」および「地域安全学会年間優秀論文賞」と称する。
- 2) 「地域安全学会論文賞」の表彰は、賞状並びに記念メダルを贈り、これを行なう。  
「地域安全学会年間優秀論文賞」の表彰は、賞状を贈り、これを行なう。
- 3) 表彰は選考された次年度の地域安全学会総会で行なう。

### ■審査概況(2015 年)

#### 1. 審査会

2015 年の審査は、学術委員と、学術委員長が委託した 1 名の地域安全学会理事（立木会長）で構成される審査会が、45 編の査読論文に対して行われた。

## 2. 審査方法

審査対象論文の共著者である審査委員は、当該論文の審査から除外し、審査委員は除外された論文以外の全ての論文に対して審査を行なった。各審査委員は、「地域安全学会論文賞」および「地域安全学会年間優秀論文書」候補について数件程度を選出し、審査会において両賞の候補について審議し受賞対象者を決定した。

### ■審査結果(2015年地域安全学会論文賞)

審査会における審議の結果、2015年は該当者なしとの結論に至った。

### ■審査結果(2015年地域安全学会年間優秀論文賞)

審査会における審議の結果、以下の2編の論文の筆頭著者が選出された。

- ・「地域データの乏しいアジアの洪水常襲地帯における簡便な洪水リスク評価手法に関する研究 -フィリピン共和国パンパンガ川流域を対象として-」(地域安全学会論文集 No.27)  
大原美保 (土木研究所)
- ・「非線形写像法による航空レーザ測量データの幾何補正とそれに基づく 2014 年広島豪雨災害での崩壊土砂量の推定」(地域安全学会論文集 No.27 )  
三浦弘之 (広島大学)

## 5. 2015年度地域安全学会技術賞審査報告

地域安全学会 表彰委員会

本年度で9回目を迎えた地域安全学会技術賞の募集に対し、1件の応募があり、2016年1月に下記の審査要領に基づき審査が行われました。審査委員9人による厳正な審査の結果、今回の技術賞は該当なしという結果となりました。ここに報告させていただきます。

### ■2015年度「地域安全学会技術賞」の審査要領（抜粋）

#### 1. 授賞対象者

「地域安全学会技術賞 候補業績募集要領」に基づき応募された「地域社会における安全性および住民の防災意識の向上を目的として開発され、顕著な貢献をしたすぐれた技術（システム、手法、防災グッズ、情報技術、マネジメント技術を含む）」を対象とする。

#### 2. 審査方法

- (1) 表彰委員会委員全員、学会長・副会長、学術委員会委員長・副委員長、学術委員会電子ジャーナル部会長・副部会長、春季研究発表会実行委員長、秋季研究発表会実行委員長から構成される技術賞審査会が審査を行う。
- (2) 表彰委員会委員長は、技術賞候補の応募期日後に三分の二以上の構成員を召集し、技術賞審査会を開催する。
- (3) 第一次技術賞審査会では、応募状況の報告、応募書類の形式審査、審査方法の確認、および技術賞選定に関する審議と決定を行う。
- (4) 審査は、当該技術の①実績、②有用性・実用性、③革新性・新規性、④一般性・汎用性、および⑤将来性・展開性を考慮した以下の手順に従い、行われる。
- (5) 各審査員は評価シートを用いて、各々の候補技術を上記①から⑤の評価項目に基づき総合的に評価する。そして、地域安全学会技術賞にふさわしい技術を選定する。
- (6) 表彰委員は、すべての審査員により提出された評価シートに基づき、技術賞受賞候補を選定する。
- (7) 第二次技術賞審査会で技術賞受賞候補について審議を行い、理事会の承認のうえ、受賞技術を決定する。
- (8) 審査の実施細目は別途定める。

## 6. 研究運営委員会の2015年度活動報告

研究運営委員会

委員長 梅本通孝（筑波大学）

研究運営委員会では、地域社会の安全性の向上に関する学術・文化・社会の進歩発達に寄与することを目的として、学会が自主的に実施する研究（企画研究）と、外部からの委託申し出によって行う研究・調査（受託研究）の運営を行っています。2015年度においては、企画研究に関する3つの小委員会が活動を行いました。以下に、小委員会の今年度の活動概要と次年度の活動計画について報告します。

### ■企画研究小委員会

#### (1) 被災地生活支援のための循環型非常食の考案と事例紹介に関する小委員会(2013～2015年度)

主査：守茂昭（一般財団法人 都市防災研究所）

被災地生活支援のための循環型非常食の考案と事例紹介は最終の3年目、備蓄に関する発想の転換を求める活動に着手した。10月3日の気仙沼の地域安全学会ワークショップにて、地域の民間の活動者の管理によってのみ、現状の備蓄の充実は達成されることを、江戸時代の備蓄の発展を引用しつつ論証した。東京都の備蓄の日の制定も視野におきつつ、個人のローリングストックにとどまらない、組織備蓄のローリングストックの可能性について、次の展開につなげる予定である。

（文責：守茂昭 主査）

#### (2) 世界の復興計画比較研究小委員会(2013～2015年度)

主査：大西一嘉（神戸大学）

大災害からの復興過程における様々な課題に関してその普遍性、法則性に着目した国際的比較検証を目指して発足した当会では、海外災害復興調査に従事し、あるいは関心の深い研究者等を中心に学際的ネットワークを組織して情報交換や研究会を通じて、東日本大震災の長期的な復興過程で得られた知見とも対比しつつ、今後の復興政策のあり方についての研究を進めたが、今年度で活動は一区切りとなることから総括報告を行う。

初年度は研究小委員会活動の対象となるべき災害事象、復興分野、国際的な研究動向などについて相互に情報交換しつつ、住宅復興を重点テーマとする基本方針を確認した。次年度は、中国での大地震災害を対象に被災した住宅形態の多様性に着目しつつ、復興計画の前提となる被災住宅復興ニーズの把握、住宅再建のあり方等について検討した。へき地災害や高地災害では、資材調達や工事期間などで困難に悩まされることから、立地環境を考慮した年次進行計画や、時間をかけた復興方式に配慮すべき事など、東日本大震災での復興の遅れにも通じる議論がなされた。

今年度は、2015年6月、11月、12月に研究会を開催した。都市部での集合住宅の復興方式に着目して、区分所有建物の復興で重要と思われる管理組合解散制度について、東日本大震災後の復興最新動向を現地専門家と意見交換した。米国のハリケーンカトリナ住宅復興制度を検討すると共に、各国の法制度の違いに関しては、EU諸国での状況をふまえて、単に区分所有者団体による私的自治に任せるのではなく社会住宅組織の介在によって社会保障として所得に見合う住宅への転換をはかる制度への理解が深まるなど、住宅の位置づけの違いが復興政策に大きく影響する等、政策に反映すべき様々な知見を蓄積することができた。

（文責：大西一嘉 主査）

### (3) 社会に役立つ防災情報システム研究小委員会(第2期)(2015～2017年度)

主査：牧紀男（京都大学）

本研究委員会は「電子情報通信学会 情報・システムソサイエティ」と共同で、東日本大震災の長期的な復興、並びに次なる災害を想定し、若手研究者を中心とした人材のネットワークを構築すると共に、様々な情報システム技術を連携・融合させることで、情報混乱期における現場対応を支援する防災情報システムのあり方について研究を進めている。

本年度は、地域安全学会・電子情報通信学会共催で研究会を2回開催した。「減災情報システム第4回合同研究会」を2015年9月14日13:00-17:00愛媛県総合社会福祉会館・第1会議室において開催し、8編の研究発表が行われた。また、「第5回減災情報システム合同研究会」を2016年3月9日13:00-17:00産業技術総合研究所 臨海副都心センター別館11階・第2会議室において開催し、7編の研究発表が行われた。研究会の発表要旨は、以下のURLより参照可能である。

URL：<https://sites.google.com/site/drisjw/home>

来年度も2回程度「減災情報システム合同研究会」を実施する計画である。本研究会への地域安全学会側の参加者が少なく、来年度は地域安全学会会員の本研究会への参加者を増やしたいと考える。

（文責：牧紀男 主査）

以上

## 7. 寄稿

### (1) 放送屋、ネットの世界で奮闘中

毎日放送報道局メディア報道部 大牟田智佐子

地域安全学会に入会した20年ほど前、「報道局社会部の記者です」と言えばたいい仕事の内容を理解してもらえました。ところが今の職場は「報道局メディア報道部」。名乗ったところで、「何それ??」「そもそもテレビが『メディア』じゃないの?」「メディアを報道するってどういうこと?」…こんな反応が返ってきます。ごもつともです。「メディア報道部」は「ニュースの多メディア展開」などを担当する部署で、こうした仕事に対し独立した部が作られているのは、放送局の中でも珍しいことなんです。

そもそもこのネーミングが、放送局に多様な仕事が増えていることを象徴しています。その典型が「放送がインターネットやSNSにどう食い込んでいくのか」です。「テレビとラジオだけ流していればよい」という時代は、すでに終わりつつあります。では実際、放送はどのように通信の世界に手を広げているのか?「メディア報道部」の仕事の一端をご紹介しますことで、少し見えてくるかもしれません。

#### 1. 災害時の「L字画面」

写真のような画面をご覧になったことはありませんか?地震や台風、大雪の際など、左と下方に「L」の字型に字幕スーパーが現れる画面です。これを業界では「L字画面」と呼んでいます。メディア報道部はこの「L字画面」に被害情報や避難情報、ライフライン情報、交通機関の遅延情報などの入力を行います。自治体や公共機関などから届く災害関連の情報は、未だにFAXが主流。送られてくるリリースの山と格闘し、HPなども参照しながら短くまとめ打ち込んでいきます。情報の更新も非常に重要な作業。例えば「午前7時現在で警報が出ているかどうか」は、多くの小中学校で臨時休校の判断の基準とされています。万が一この時刻の直前に警報が解除され、L字に反映されなかった場合、大きな影響を及ぼしかねません。このため、当該の災害が続く限りできるだけ1人で担当することが多く、体力と神経を使います。



写真1 2015年台風11号でのL字画面

## 2. twitter 上の写真・動画の検索

メディア報道部は事件や事故の際、一般の人が撮影した「発生直後の写真や動画」を探し、放送に反映させるお手伝いをします。最近では、事件現場などに駆けつけた報道カメラよりも早く、的確に事象を表現する写真や動画を一般の人が撮影しているケースが増えてきました。現場で記者やカメラマンも直接「撮影した方、いらっしやいませんか？」と探すのですが、twitter 上に投稿されることも多く、パソコンで検索し本人に連絡を取ることもたびたびあります。ツイートした人には twitter から呼びかけるしかなく、時には他局に先に交渉に入られてしまい、画像を提供してもらえないケースもあります。スピード勝負です。

これに加えて MBS では、事件・事故の目撃映像を簡易な操作で放送局に投稿できるアプリを今年2月に開発しました。放送局が映像を探しに行くだけでなく、一般の人からも積極的に集めようというものです。twitter による画像検索と同様、こうした動画投稿の呼びかけも各局が競うように力を入れています。



写真2 MBS 報道局の動画投稿アプリ

### 3. twitter での速報

MBS 報道局では、「MBS ニュース」(@mbs\_news)「MBS 気象情報」(@mbs\_weather)などのアカウントでニュースや災害情報をツイートしています。この管理をしているのがメディア報道部です。「MBS 気象情報」では、近畿地方の気象警報のほか、土砂災害警戒情報・竜巻注意情報をツイートします。twitter の強みは、「プッシュ」つまり情報が入ったことが強制的に通知されやすいこと。ただ、自分が選んだアカウントの情報しか見ない人も多く、そもそも MBS を選んでもらわなければ情報を届けようがありません。そのため、地道にファンを増やす努力をしています。それがこの次に挙げる仕事です。



写真3 「MBS 気象情報」のツイッター

### 4. Facebook コラム

メディア報道部は、「MBS 報道局」など報道関連の Facebook ページを管理しています。Facebook は twitter のような字数制限がなく「写真付きコラム」でより深い内容も伝えることができます。そこでメディア報道部では月～金の毎日、違ったテーマでコラムを更新しています。「日常の読み物」として興味を持てる内容をと考え、放送の裏側紹介やニュース番組の予告、報道カメラマンやデスクのコラムを発信しています。私も毎週災害や防災のコラムを担当しています。災害や防災の知識は普段から知っておくことが重要ですが、何も起きていないときに興味を持ってもらえるような伝え方には苦労しています。伝えるべきことと一般の人たちの目を引きそうなことがかけ離れているケースもあるからです。また、訴求力に関してもまだまだ放送には及びません。夕方のニュース（視聴率 10%前後）ならほぼ 210 万人が見ていることになりましたが、Facebook はせいぜい 1000 人、多くて 5000 人。最大でも 1 万 5000 人ほどのアクセスしかありません。それでも、災害時に放送が見られなくなった人たちが SNS に頼ることがあるかもしれません。そのときに MBS の情報に接触してもらえるよう、普段から地道な努力を重ねていると申し上げておきましょう。





写真4 「MBS 報道局」の Facebook ページ

## 5. 「ウェブニュース」

今、メディア報道部が最も力を入れているのがこの「ウェブニュース」に関する仕事です。

2014 年総務省の調査によれば、「いち早く世の中のできごとや動きを知るメディア」として 20 代・30 代が挙げたのは、テレビではなくインターネットでした。20 代では「テレビ」と答えた人が 36.7%なのに対し、「ネット」は 59.7%。30 代では「テレビ」が 44.8%で「ネット」が 52.7%です。いずれも過半数が「ネット」でした。私たちメディア報道部は、この「ネット」の世界に自社のテレビのニュースを流し込んでいます。私はこの仕事によって、ネットの世界の価値観を新たに知ることになりました。

放送されたニュースは自動的にウェブに流れているわけではありません。権利に問題はないか、間違った字幕がつけられていないか・・・など必ず人がチェックし、ウェブに掲載できるニュースを選び出します。この作業を経たニュースは、MBS の HP に掲載されるほか「Yahoo! ニュース」（以下、「ヤフーニュース」）や「SmartNews」（以下、スマートニュース）に提供されています。パソコンやスマートフォンからも手軽にアクセスできるウェブニュースは、忙しい社員が通勤の合間に利用したり、新聞やテレビがない世帯の人たちがニュースを利用したりする手段として、欠かせないものになっています。各社似たようなニュースを流しているため、放送後ウェブにアップするのが早かったニュースからこうしたポータルサイトなどに掲載される確率が高くなるため、この作業もスピード勝負です。

さて、ここで問題です。放送のトップニュースは、ネットにもそのままトップとして流れていくのでしょうか？

こう書くと、答えがわかってしまいますね。放送とネットのトップニュースは必ずしも一致しません。報道番組では、記者やデスクが考える重要度に応じて「トップニュース」を決めています。一方、ネットの世界ではどう選ばれているのかというと・・・例えば今年 3 月 16 日。この日、昼の全国ニュースのトップ項目は「アメリカ大統領選挙、トランプ氏とクリントン氏の 2 強対決が濃厚」でした。



写真5 2016年3月16日 JNNの昼ニュース

一方、ネットの世界では…。「世の中で話題になっているニュースを一瞬でチェックできる」という謳い文句でスマートフォン向けのニュースアプリを提供している「スマートニュース」。この日のトップニュースは…



写真6 スマートニュース社

16時現在、スマートニュースのトップは「ソニー仮想現実機器『プレイステーションVR』10月に発売へ」。えっ？そんなニュースあったっけ？と放送屋は首を傾げてしまいました。この違いは何でしょうか？スマートニュースの担当者は「アルゴリズムが選んだ結果で、トランプ氏のニュースが載っていないということは、ユーザーの興味としての消費の部分がすでに終わっていることを意味する」と話します。

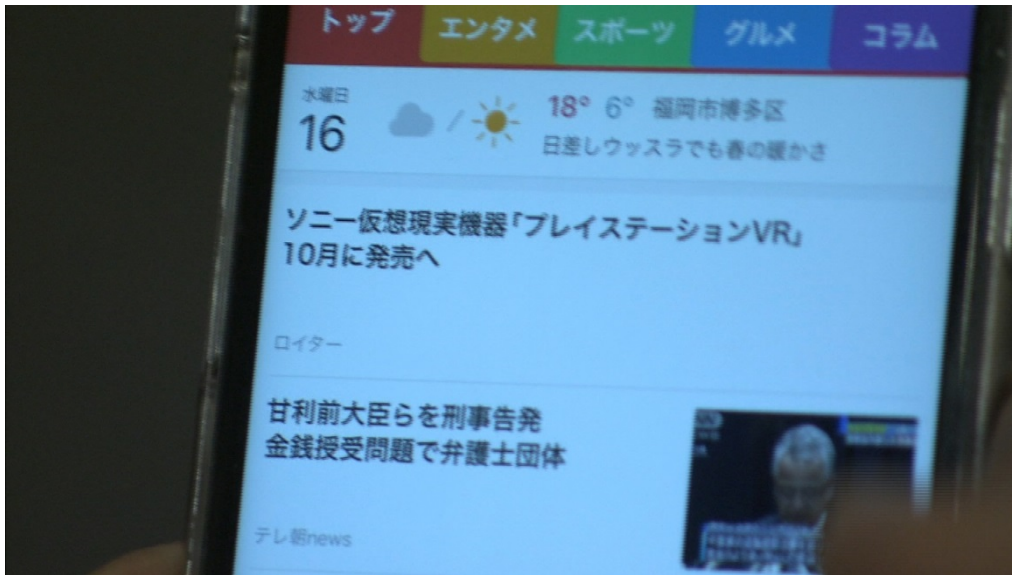


写真7 2016年3月16日16時現在スマートニュースの「トップニュース」

「アルゴリズム」とはなんなのでしょうか？情報処理のための数式だそうです。記事の質やスクープ性、過去にどのような内容が読まれたのかといった要素に基づいて機械が判断するのです。スマートニュースは、この「アルゴリズム」によって世界の報道機関などが発信した1000万件のニュースを1000件にまで絞り込んでいます。ある意味客観的な判断ともいえるのですが、この日各局のトップを飾ったトランプ氏のニュースが「すでに消費された」とは…。

一方で、ネットニュースの世界で最も利用者が多いヤフーニュースでは、違う結果となりました。



写真8 ヤフージャパン本社

14時現在、ヤフーのトップニュースは「トランプ氏 指名争い長期化か」。放送と同じです。では、ヤフーニュースはどのようにトップ項目を決めたのでしょうか？それは、スマートニュースと逆で、“目利き”によって選んでいました。ヤフーニュースには総勢 25



人からなる編集部があります。編集者の半数は新聞社などに在籍していた記者経験者。テレビ局や新聞社などから配信された1日4000本のニュースから100本を「トピックス」として選び出し、さらにそのうちの8本をトップページに載せています。選ぶのはあくまで彼ら編集者。すなわち「人」です。ネットの中でも様々な価値観によってニュースが扱われています。一般の人はどのニュースアプリ・どのポータルサイトを選ぶのかによって接触する情報が全く違ってくることにもなります。

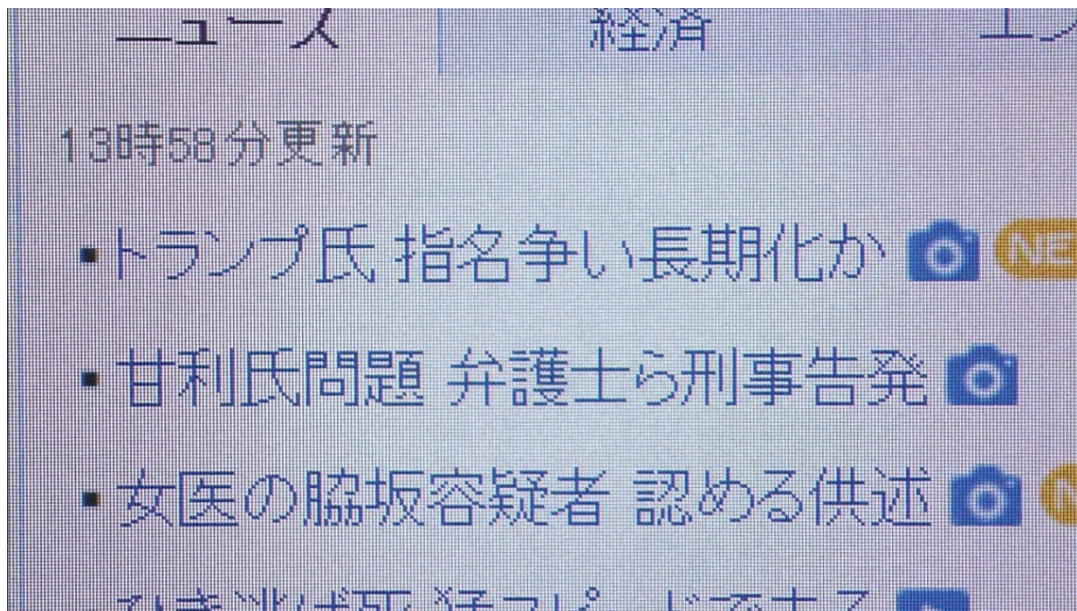


写真9 2016年3月16日13時58分現在ヤフーニュースのトップニュース

## 6. おしまいに

しばらく前にこんな記事が掲載されました。若者がテレビを見ないのは「せやかて動画、途中から再生されますやん」という理由からだ…。私も衝撃を受けました。「放送時間に自分が合わせる」のではなく、「自分の都合に合わせて」短時間で情報が得られるパーソナルなメディアしか受け入れられなくなっているのかもしれない。しかしながら、そんな「こらえ性のない」若者たちにも防災を担ってもらわなければなりません。これまで同様、放送で大切な情報を伝えつつ、どうすれば彼らに情報を届けることができるのか。新しいメディアにも積極的に情報を発信していくのが我が「メディア報道部」です。ぜひ、私たちの仕事ぶりをご覧になっていただき、忌憚のないご意見をいただければ幸いです。

MBS ニュース twitter : @mbs\_news

MBS 報道局 Facebook : <https://www.facebook.com/mbsnews>

(了)

(2)

2016年4月11日

**地域安全学 夏の学校 2016**  
**ー基礎から学ぶ防災・減災ー**  
(安全・安心若手研究会 第3回交流会)

1. 趣旨

地域安全学は、災害、防災・減災、復旧・復興、犯罪・防犯、事故、危機管理など、概念や分析手法が多岐にわたります。地域安全学を学ぼうとする初学者にとっては、「どこから手を付ければいいのか」悩ましいところがあります。

「地域安全学 夏の学校」は、大学生・大学院生を主な対象として、一流の研究者が講義や演習を行うセミナーとして開催するものです。複数の先生方を講師としてお招きし、各分野の基礎を「分かりやすく」講義していただきます。初回である2016年度は、8月に仙台で開催し、3名の講師による座学形式で行います。今後、毎年講師を変更して開催するとともに、演習や合宿の形式を取り入れていく予定です。

これから研究を始めようとする方や、基礎からしっかりと見直したい方に大変おすすめです。大学生・大学院生に限らず、実務者・研究者の方々も参加歓迎です。この機会に是非、ご参加ください。

2. 日時・会場

日時：2016年8月7日（日）10:00～17:00 ※前日まで石巻市で連続ワークショップ

会場：東北大学災害科学国際研究所（宮城県仙台市）

3. プログラム

- 10:00～10:10 開会
- 10:10～12:00 常葉大学 重川希志依教授：エスノグラフィーと防災・減災（110分）
- 12:00～13:00 昼食 ※お弁当をご用意します。
- 13:00～14:50 大阪市立大学 宮野道雄教授・副学長：建築学と防災・減災（110分）
- 15:00～16:50 同志社大学 立木茂雄教授：社会学と防災・減災（110分）

4. 申し込み方法

**申込み期限：2016年7月20日（水）12:00**

宛先：anzenanshin.community[\*]gmail.com ※[\*]を@（アットマーク）にかえて

メールタイトル：夏の学校2016 申込み

送付内容：①お名前、②ご所属、③職位または学年、

④メールアドレス、⑤携帯電話番号（緊急連絡先として）

電話等でのお問合せ：022-752-2099（担当：佐藤翔輔（東北大学災害科学国際研究所））

5. 参加費

お弁当代・資料代あわせて：1,500円

世話係：松川杏寧、佐藤翔輔、杉安和也、藤生慎、河本尋子、寅屋敷哲也



地域安全学会ニューズレター  
第 95 号 2016 年 4 月

地 域 安 全 学 会 事 務 局  
〒102-0085 東京都千代田区六番町 11-3  
エクサス六番町 401  
株式会社サイエンスクラフト内  
電話・FAX : 03-3261-6199  
e-mail : iss2008@iss.info

次のニューズレター発行までの最新情報は、学会ホームページ (<http://iss.jp.net/>) をご覧ください。